

別記様式

会議結果報告書

令和5年8月16日

会議の名称	志木第二中学校区義務教育学校開校準備委員会（第4回）
開催日時	令和5年7月19日（水）午後1時30分～午後2時35分
開催場所	志木市役所2階 中会議室2-1、2-2
出席委員	柚木委員長、松本委員、青木委員、小暮委員、富増委員、 三杉委員 (計6人)
欠席委員	船平副委員長、磯委員、工藤委員、臼田委員 (計4人)
説明員職氏名	原田学校教育課参与 (計1人)
議題	志木第二中学校区義務教育学校校名案の選定について
結果	別紙、審議内容の記録のとおり
事務局職員	今野教育政策部長、島村教育政策部次長兼学校教育課長、 安原小中一貫教育学びプロジェクトコーディネーター、 川瀬学校教育課指導主事、三好学校教育課指導主事、 原田学校教育課参与、亀和田学校教育課主査 木村小中一貫教育推進コーディネーター

審議内容の記録（審議経過、結論等）

会議の開始前に会議の公開及び傍聴者の有無について確認を行った。

→傍聴希望者あり 5名

1 開会

2 議題

● 志木第二中学校区義務教育学校校名案の選定について

事務局から説明

前回の開校準備委員会で選定した24件の校名案について、文部科学省が公開する学校コードを使用し、同一名称の校名がないか確認した結果、同一名称の校名は存在しなかった。なお、学校コードにある幼稚園から各種専門学校までのすべての学校種において確認した。

ただし、No.15の若駒学園は、児童福祉法第44条の規定に基づき設置された児童自立支援施設である鹿児島県立若駒学園という名称の施設が存在することを報告する。

【以下質疑】

(委員長)

前回の第1次選考で24件の校名案を選定したが、今回提示された校名案数が21件となっている理由はあるか。

(事務局)

24件の校名案について、同一名称で複数応募の校名案があったことから、整理させていただいた結果、21件の校名案となったところである。

(委員長)

本日は、校名案を1つに選定することではなく、第2次選考として応募者の思いなども確認しながら、複数の校名案を選定したい。

(委員)

柳瀬川、志木などの地名は入っている名称が良いのではないか。

(委員)

地名が入っているもので、低学年もわかりやすく親しみやすい名称が良いと思う。例えば、さくらなどはどうか。カタカナよりもひらがなを使いたい。

(委員)

21件の校名案の中でキーワードとして多いのが、「柳瀬川（柳瀬）」「わかこま（若駒）」「志木の森（杜）」であるので、応募数の多いキーワードを大事にしたい。個人的には、「わかこま（若駒）」というキーワードに共感する。

(委員)

「柳瀬川（柳瀬）」「志木の森（杜）」「マロニエ」「わかこま（若駒）」「さくら」というキーワードに注目した。

特に、「志木の森」という名称のコンセプトである「森」は3つの学校を「木」に例え、1つになって「森」になるというところは良いと思う。

「柳瀬川（柳瀬）」「わかこま（若駒）」についても地域性がわかるので良いキーワードであると思う。

(委員)

3つの学校があわさるといった思いが込められている「志木の森」「しきさい」「クローバー」が良いと思う。

(事務局)

本日欠席の委員より事前にいただいた意見では、「柳瀬川」というキーワードが一番多いが、応募者の思いで3つの学校があわさるという意味で「志木の森」、これだけの自然があり、3つの学校が隣接しているこの地域ならではの名称であると意見をいただいている。

(委員長)

「柳瀬川（柳瀬）」「わかこま（若駒）」「志木の森（杜）」「さくら」などの意見が出たが、他に意見はあるか。

(委員)

「森」という言葉に込められた思いには納得できる。

また、優しい表現というところで、例えば「わかこま（若駒）」という言葉も漢字ではなく、ひらがなを選定することによって親しみやすさを感じることができるのではないか。

（委員長）

「柳瀬川（柳瀬）」「志木の森（杜）」「わかこま（若駒）」というキーワードが委員の皆様から多く推薦があったが、このキーワードを中心に選定を進めていくことでよいか。

（委員）

本日、欠席している委員からも意見を聞いた方が良いと思う。

（委員長）

第2次選考として本日は、複数の校名案を残していく。

また、名称の末尾となる「学園」や「義務教育学校」についてはどうか。

（委員）

学園の方が親しみやすい名称となるのではないか。

（委員長）

全国的には名称の末尾はどの呼び方が多いのか。

（事務局）

「学園」「義務教育学校」どちらのケースもあるが、全国的に見ると、義務教育学校、小中一貫型小・中学校いずれの形態も「学園」とつけている方が多い。

法律上では義務教育学校という名称であるが、低学年には書くことも読むことも難しいのではないかという意見も応募者から出ている。

（委員）

市内の他の3中学校区は、小中一貫型小・中学校として〇〇学園という通称名をつけることになると思うので、義務教育学校となるこの中学校区はあえて「義務教育学校」を使用することもよいのではないか。ただし、低学年には難しい名称となることは確かである。

(委員)

単純に考えると、学園の方が呼びやすく、書きやすいと思う。

ちなみに、〇〇学園と使用している義務教育学校の数は全国にどのくらいあるのか。

(事務局)

以前お示しした義務教育学校一覧表によると、義務教育学校178校のうち、「義務教育学校」を用いている校名は48校、「学園」を用いている校名は101校となる。なお、この中には〇〇学園義務教育学校などの両方の名称を使った学校も含まれる。

(委員)

県内では、義務教育学校が2校あり、いずれも〇〇小中学校という名称を付けている。小中一貫型小・中学校では〇〇学園と付けている。

(事務局)

「義務教育学校」という名称を付けられるのは、義務教育学校を設置した学校だけであるため、小中一貫型小・中学校では「学園」と付けることになる。

(委員)

私立では、学校法人として大学、高等学校、中学校を運営し、それらを総称して〇〇学園と呼んでいるケースが多い。

(委員長)

末尾の「学園」「義務教育学校」などの名称については、いただいた意見等も踏まえながら引き続き検討していく。

学校の名称キーワードの部分については、改めてご意見等はあるか。

現時点については、「柳瀬川（柳瀬）」「わかこま（若駒）」「志木の森（杜）」という意見が上がっているが、他にはどうか。

(事務局)

名称を決めていくうえでの参考であるが、「志木の杜」という名称は、本市柏町地内に所在する集合住宅及び公園と同様の名称になる。また、幸町地内にも「志

木の杜」という名称が入った集合住宅が存在する。

(委員)

志木第二中学校区の状況等を勘案すると、「志木の森」の方が良いと思う。

(委員)

この地域には、〇〇の森という名称も多く、地域になじみやすい名称であると思う。

(委員長)

志木第二中学校には、若駒という伝統があるがどうか。若駒館という施設もある。

(委員)

優先順位を伝統ではなく地名とすると、「わかこま（若駒）」は優先順位が低くなるのではないかと。

このほか、特色として「さくら」「森」というような言葉を使うのであれば、「森」という言葉が地域に合っているのではないかと。

(委員)

若駒という言葉が地域に知られているのであれば、「わかこま（若駒）」を使うことは良いと思う。

若駒についての説明であるが、志木第二中学校正門前には7本のソテツと4つの石からなる若駒の丘がある。それぞれ名称がついているが、4つの石は生徒・教職員・保護者・地域を象徴しており、生徒を象徴する石を若駒と呼んでいる。

よって、若駒は生徒のことで、生徒を中心という思いが込められており、シンボリックなものとなっている。

(委員)

若駒はシンボリックなものということであるが、校章とかには使われているのか。

(委員)

校章には使われていないが、在校生・卒業生ともに、集合写真を撮る際は決ま

って若駒の丘の前となることが定番になっている。

(委員長)

若駒が志木第二中学校のシンボルとなっていることは分かった。

「柳瀬川（柳瀬）」「志木の森（杜）」「わかこま（若駒）」という3つのキーワードが入ったものを第2次選考とし、次回以降改めて委員の皆様と検討していく。

また、「学園」、「義務教育学校」などの末尾の名称についても引き続き検討していく。

(委員)

志木第二中学校区義務教育学校は、児童生徒が明るく元気に毎日通えることはもちろんであるが、加えて、防災や地域の拠点になるような学校としていきたいとも考えるので、名称についてもその点も踏まえて選定していきたい。

以上